

半田市

山車まつり情報

半田市では3月下旬から5月上旬にかけて市内10地区で次々に春祭りが行われ31輛の山車が登場します。立川和四郎、新美常次郎などの名工による精緻な彫刻、金銀の刺繍幕で飾られた山車の曳き廻しはまさに「勇壮華麗」。からくり人形の妙技、獅子舞、三番叟など見どころも満載です。地区によっては夏祭りにも山車が曳き廻されるなど、これら多数の山車の存在は半田が「山車のまち」と呼ばれる所以となっています。そして春祭りの31輛が5年に一度だけ勢揃いする盛大なイベントが「はんだ山車まつり」です。31輛が織りなす「山車絵巻」に半田のまちは熱い興奮に包まれます。

地区名

まつり名称

祭礼場所

祭礼場所の住所

山車名称 (組名等)

よみがな

山車等の特徴

情報の見方



亀崎

亀崎潮干祭

神前神社等

半田市亀崎町2-92等

宮本車 (東組)

みやもとぐるま

建造時期：元治元年。彫刻「鶴退治」、「龍に虎」(瀬川治助重光)等。水引は白地に七五三縄の金刺繍、追幕は狸々緋に七曜星の金刺繍。からくり人形「三番叟」(前棚。日下浄雲)、「湯取り神事」(上山。荒川宗太郎)。



亀崎

亀崎潮干祭

神前神社等

半田市亀崎町2-92等

青龍車 (石橋組)

せいりゅうしゃ

建造時期：明治24年。彫刻「風伯神・雷電神」(竹内久一)。七宝焼前棚4本柱(川口文左衛門)。大幕は波上青龍、追幕は五岳真形図金刺繍。水引は朱雀の縫いつぶし。からくり人形「布ざらし」(前棚。竹田源吉)、「唐子遊び」(上山。鬼頭二三)。



亀崎

亀崎潮干祭

神前神社等

半田市亀崎町2-92等

力神車 (中切組)

りきじんしゃ

建造時期：文政9年。彫刻「力神」、「子持龍」(立川和四郎富昌)。大幕は狸々緋に虎の刺繍(越前守岸駒下絵)、水引は青龍の縫いつぶし(越前守岸駒下絵)。からくり人形「狸々」(前棚。五代目玉屋庄兵衛)、「浦島」(上山。六代目玉屋庄兵衛)。



亀崎

亀崎潮干祭

神前神社等

半田市亀崎町2-92等

神楽車 (田中組)

かぐらぐるま

建造時期：天保8年。彫刻「欄亭の庭・鉄拐仙人・墓仙人」(立川常蔵昌敬)。大幕は狸々緋に牡丹と唐獅子、追幕は孔雀の刺繍。水引は雲霞と蝶乱舞の縫いつぶし。からくり人形「巫子の舞」(前棚)、「傀儡師」(船弁慶) (上山)。



亀崎

亀崎潮干祭

神前神社等

半田市亀崎町2-92等

花王車 (西組)

かおうぐるま

建造時期：弘化3年。彫刻「太平楽楽人」、「葡萄採り仙人」(立川和四郎富昌)。大幕は狸々緋に雅楽器、水引は御簾の金刺繍、追幕は御所車の刺繍。からくり人形「神官」(前棚。五代目玉屋庄兵衛)、「石橋」(前棚)、「桜花唐子遊び」(上山)。



乙川

乙川祭り

乙川八幡社等

半田市殿町97等

宮本車 (浅井山)

みやもとぐるま

建造時期：安政6年。彫刻「竹林の七賢人」(立川和四郎富重)、「牛若丸と烏天狗」(立川角三郎)、「三国志」(初代彫常)。水引は雲龍の刺繍。からくり人形「三番叟」(前棚)、「唐子遊び」(乱杭渡り・変身) (上山。山田利園)。



乙川

乙川祭り

乙川八幡社等

半田市殿町97等

源氏車 (殿海道山)

げんじぐるま

建造時期：嘉永5年。彫刻「焚燗の門破り」、「風神・雷神」(立川和四郎富重)、「富士の巻き狩り」(初代彫常) 高欄まわりに螺鈿。水引は白地に松鷹の刺繍。



乙川

乙川祭り

乙川八幡社等

半田市殿町97等

八幡車 (南山)

はちまんぐるま

建造時期：天保年間。彫刻「稲田姫」、「須佐之男命」、「桃園の三傑」(初代彫常)。黒柿に金焼付の前棚4本柱と巻龍。彩色した近江八景と上山及び吹抜格天井。水引は群鳩飛翔の刺繍。からくり人形「役小角大峯桜」(上山。九代玉屋庄兵衛)。



乙川
乙川祭り
乙川八幡社等
半田市殿町97等

神楽車 (西山)
かぐらぐるま

建造時期：天保年間。彫刻「稲穂に鶴」、「神功皇后」、「猿」、「唐獅子に牡丹」(初代彫常)。水引は日の出に鶴の刺繍(小田甫川下絵)。



岩滑
岩滑地区祭礼
岩滑八幡社
半田市岩滑中町7-80

八幡車 (義烈組)
はちまんしゃ

建造時期：江戸時代末期。彫刻「猪と仁田四郎」、「虎と和藤内」、「十二支」(出羽看龍)。大幕は親子龍の金刺繍、水引は緑地に群鳩飛翔の刺繍、追幕は緋羅紗地に竹と虎の刺繍。からくり人形「三番叟」(前棚)。



岩滑
岩滑地区祭礼
岩滑八幡社
半田市岩滑中町7-80

御福車 (西組)
おふくぐるま

建造時期：大正7年。彫刻「七福神」、「竹に虎」、「楠公父子の別れ」(初代彫常)。大幕は緋羅紗地に鯉の滝登りの刺繍、水引は黒地に龍の金刺繍、追幕は緋羅紗地に岩上の鷹の刺繍。



岩滑新田
岩滑新田地区祭礼
神明社
半田市平和町6-37

神明車 (平井組)
しんめいぐるま

建造時期：大正7年。彫刻「神武東征」、「三姫松」(初代彫常)。大幕は緋羅紗地に玉取姫と飛龍、水引は緑地に鶴の群舞、追幕は鳳凰刺繍。からくり人形「三番叟」(前棚。六代目玉屋庄兵衛)。



岩滑新田
岩滑新田地区祭礼
神明社
半田市平和町6-37

旭車 (奥組)
あさひぐるま

建造時期：大正5年。彫刻「天之岩戸」、「力神」(初代彫常)。大幕は緋羅紗地に南古童話、水引は緑地に群鳩飛翔、追幕は奥の文字に波の刺繍。からくり人形「三番叟」(前棚)。



上半田
上半田地区祭礼・ちんとう祭
住吉神社
半田市宮路町53

唐子車 (北組)
からこぐるま

建造時期：大正12年。彫刻「三韓征伐宝物受取りの図」、「須佐之男命」、「日本武尊」、「唐獅子に手まり」(初代彫常)。水引は濃緑地に飛龍、追幕は緋羅紗地に鳳凰・雲・桐の刺繍。純銀製の金具、増箱襖絵「福寿天来」(山本香雲直筆)。



上半田
上半田地区祭礼・ちんとう祭
住吉神社
半田市宮路町53

福神車 (南組)
ふくじんぐるま

建造時期：弘化3年。彫刻「七福神」(立川和四郎富昌)、「崑崙坊人」(立川常蔵昌敬)、「力神」(初代彫常)、「龍頭台輪」(有馬白匠要治)。水引は松に鷹、追幕は緋羅紗地に花鳥の刺繍。



上半田
上半田地区祭礼・ちんとう祭
住吉神社
半田市宮路町53

住吉丸 (北組)
すみよしまる

建造時期：不明。津島天王祭由来のちんとう舟。子供三番叟は上半田地区のみ。北組住吉丸では、子どもによる力強い男三番叟。



上半田
上半田地区祭礼・ちんとう祭
住吉神社
半田市宮路町53

入宮丸 (南組)
いりみやまる

建造時期：不明。津島天王祭由来のちんとう舟。子供三番叟は上半田地区のみ。南組入宮丸では、子どもによる穏やかで優しい女三番叟。



下半田
下半田地区祭礼
業葉神社等
半田市東本町2-18等

唐子車 (北組)
からこぐるま

建造時期：天保8年。彫刻「手長足長」、「唐子遊び」(立川常蔵昌敬)。大幕は瓢箪から駒・酒呑童子、水引は群鳩飛翔、追幕は北の文字の刺繍。からくり人形「三番叟」(前棚)、「肩車離れからくり」(上山) (隅田兵衛)。



下半田
下半田地区祭礼
業葉神社等
半田市東本町2-18等

祝鳩車 (中組)
しゆくきゅうしゃ

建造時期：大正3年。彫刻「天之岩戸」、「神武天皇」、「昇鳩降鳩」(初代彫常)。大幕は波、水引は群衛、追幕は欄陵王の刺繍。からくり人形「太平楽」(前棚。六代目玉屋庄兵衛作)、「欄陵王」(上山。七代目玉屋庄兵衛作)。



下半田
下半田地区祭礼
業葉神社等
半田市東本町2-18等

山王車 (東組)
さんのうしや

建造時期：大正8年。彫刻「力神」、「源為朝」(初代彫常)、「摸」(有馬白匠要治) 大幕は琴高仙人・費長房仙人・盧敖仙人、水引は松鷹、追幕は東雲橋と桜の刺繍。からくり人形「鷹振り人形」(前棚。七代目玉屋庄兵衛)。



下半田
下半田地区祭礼
業葉神社等
半田市東本町2-18等

護王車 (南組)
ごおうしや

建造時期：明治34年(江原新助)。彫刻「護王の夢物語」(壇箱)、裝飾に金糸。水引は鶴の群舞刺繍、追幕に五色の几帳。からくり人形「巫女の舞」(前棚。六代目玉屋庄兵衛)、「二福神」(上山。九代玉屋庄兵衛)。



協和
協和地区祭礼
白山神社
半田市白山町4-122

白山車 (砂子組)
はくさんしや

建造時期：大正3年。彫刻「鴻門の会」、「三国志演義」(初代彫常)、「八方脱みの鬼」、「龍」(瀬川治助重光)。水引は白羅紗地に松と鷹、追幕は青地に鶴と雲の刺繍。からくり人形「三番叟」(前棚。六代目玉屋庄兵衛)。



協和
協和地区祭礼
白山神社
半田市白山町4-122

協和車 (西組)
きょうわしや

建造時期：大正13年。彫刻「楠公父子の別れ」、「力神」(初代彫常)。水引は白地に雀の刺繍、追幕は緋羅紗地に松と鷹の刺繍。



成岩
成岩地区祭礼
成岩神社
半田市有楽町1-13

成車 (北村)
なるしや

建造時期：大正13年。彫刻「元寇」、「七福神」(初代彫常)。大幕は緋羅紗地に唐獅子と牡丹の刺繍、水引は紫羅紗地に鳳凰の刺繍、追幕は緋羅紗地に鷹と松の刺繍。



成岩
成岩地区祭礼
成岩神社
半田市有楽町1-13

南車 (南組)
なんしや

建造時期：宝暦年間。彫刻「馬師皇と龍」(立川和四郎富昌)、「松に鷹・柘榴に猿」(瀬川治助重光)、「力神」(初代彫常)。水引は白羅紗地に龍の刺繍、追幕は緋羅紗地に昇龍・雲の金刺繍。からくり人形「三番叟」(前棚)。



成岩
成岩地区祭礼
成岩神社
半田市有楽町1-13

神車 (西馬場)
かみぐるま

建造時期：大正14年。彫刻「葉湯の図」、「大江山鬼退治」、「烏天狗と仙人」、「弁慶の勸進帳」(初代彫常)。大幕は緋羅紗地に風神雷神金・白金刺繍、水引は白灰色羅紗地に波上に龍の刺繍、追幕は緋羅紗地に唐獅子牡丹の金銀刺繍。



成岩
成岩地区祭礼
成岩神社
半田市有楽町1-13

旭車 (東組)
あさひぐるま

建造時期：大正13年。弘化3年、上半田北組の山車を譲り受ける。彫刻「藝仙人・鉄拐仙人」、「唐子と鶏」(立川和四郎富昌)、「龍」(初代彫常)。大幕は緋羅紗地に三玉の亀、水引は緑地に鶴の刺繍。追幕は緋羅紗地に波と太陽の金銀刺繍。



西成岩
西成岩地区祭礼
成石神社
半田市宮本町4-106-8

敬神車 (西組)
けいしんぐるま

建造時期：明治11年。彫刻「京都御所の景(鶴退治)」(瀬川治助重光)、「力神」(野々垣清太郎)、「神功皇后」(初代彫常)。水引は白羅紗地に波と飛龍、追幕は緋羅紗地に烏帽子と鈴の刺繍。からくり人形「三番叟」(前棚)、「鶴」(上山。九代玉屋庄兵衛)。



西成岩
西成岩地区祭礼
成石神社
半田市宮本町4-106-8

日之出車 (彦洲組)
ひのでぐるま

建造時期：明治時代。弘化3年の木箱も現存。彫刻「桃園の三傑」、「松鷹」(初代彫常)、「牡丹に唐獅子」、「竹に虎」(岩田冬根)。水引は白地に雲と龍、追幕は緋羅紗地に扇と鈴の刺繍。からくり人形「巫女の舞」(前棚)。



板山
板山地区祭礼
板山神社等
半田市板山町7-9等

本子車 (本板山組)
ほんこしや

建造時期：昭和初期。「七福神」、「力神」(初代彫常)等の彫刻がある。水引は七五三縄の刺繍、追幕は大黒天の刺繍。からくり人形「三番叟」(前棚)。



板山
板山地区祭礼
板山神社等
半田市板山町7-9等

旭車 (小板組)
あさひぐるま

建造時期：江戸時代末期。彫刻「張良と黄石公」、「大天狗・牛若丸」(初代彫常)、「笹竹」(瀬川治助重光)、「仁徳天皇」(初代彫常)。水引は緑地に鴻ノ松の刺繍。追幕は緋羅紗地に「清而美」の黒文字。



板山
板山地区祭礼
板山神社等
半田市板山町7-9等

花王車 (大湯組)
かおうしや

建造時期：昭和2年。彫刻「天之若戸」、「神武東征」(初代彫常)等。水引は鶴の刺繍(森高雅下絵)、追幕は緋羅紗地に「大湯組」の文字の刺繍。



板山
板山地区祭礼
八幡神社等
半田市神代町1-61等

神力車 (日役組)
しんりきしや

建造時期：明治5年。彫刻「須佐之男命」、「日本武尊」、「神功皇后」、「力神」(初代彫常)。大幕は緋羅紗地に獅子の谷落とし、水引は青地に鳩の刺繍、追幕は緋羅紗地に「日役組」の字の縫い付け。からくり人形「三番叟」(前棚)を搭載。



亀崎
亀崎コミュニティ夏祭り
神前神社
半田市亀崎町2-92

四神車 (亀崎)
しじんしや

建造時期：不明。明治10年、神社への奉納が由来。昭和59年、コミュニティ夏祭りとして復活。「女祭り」とも言われ、女性も参加でき、山車の舞台上で踊りの奉納を行う。



亀崎
亀崎コミュニティ夏祭り
神前神社
半田市亀崎町2-92

秋葉車 (亀崎)
あきばしや

建造時期：平成4年。明治10年、神社への奉納が由来。昭和59年、コミュニティ夏祭りとして復活。「女祭り」とも言われ、女性も参加でき、山車の舞台上で踊りの奉納を行う。



亀崎
亀崎コミュニティ夏祭り
神前神社
半田市亀崎町2-92

唐子車 (亀崎)
からこしや

建造時期：不明。明治10年、神社への奉納が由来。昭和59年、コミュニティ夏祭りとして復活。「女祭り」とも言われ、女性も参加でき、山車の舞台上で踊りの奉納を行う。



亀崎
亀崎コミュニティ夏祭り
神前神社
半田市亀崎町2-92

朝日車 (亀崎)
あさひぐるま

建造時期：不明。明治10年、神社への奉納が由来。昭和59年、コミュニティ夏祭りとして復活。「女祭り」とも言われ、女性も参加でき、山車の舞台上で踊りの奉納を行う。



亀崎
亀崎コミュニティ夏祭り
神前神社
半田市亀崎町2-92

牡丹車 (亀崎)
ぼたんしや

建造時期：昭和61年。明治10年の神社への奉納が由来。昭和59年、コミュニティ夏祭りとして復活。「女祭り」とも言われ、女性も参加でき、山車の舞台上で踊りの奉納を行う。



乙川
乙川祇園まつり
津島神社
半田市乙川西ノ宮町3-36

天王車(乙川)
てんのうしや

建造時期：天保9年頃。色とりどりの提灯が飾り付けられている。舞台があり、女兒が日本舞踊を披露。一部残されていた旧材や亀崎東組から譲られたゴマ(車輪)を使用し、地域有志の浄財により、平成10年に復活。



瑞穂
瑞穂区盆踊り
瑞穂記念館
半田市瑞穂町3-1-6

瑞宝車(瑞穂)
ずいほうしや

建造時期：平成8年。区ができた際、区の特徴として造られた。春の祭礼は男性中心なため、女性や子供・年輩に親しまれる花車とした。公募で名称決定(瑞穂区の宝)。女性を中心とした三味線、太鼓による囃子(10曲)。



下半田
北区夏祭
業葉神社
半田市東本町2-18

雅車
みやびぐるま

建造時期：平成5年。山車名は、皇太子ご成婚の年に完成したため、皇太子妃 雅子様の名前にちなむ。2層で御簾を水引幕に見立て、提灯約120個で飾る。前幌棒に板を渡し舞台とし、日本舞踊や囃子を奉迎する。

常滑市

山車まつり情報

常滑市は愛知県西部にあり、詳しくは知多半島西岸の中央部に位置しています。古くから焼き物が有名であり、日本六古窯のひとつにも数えられます。近世中期以降に山車が出現し、徐々に数を増やしてきました。現在常滑市では3月下旬から5月上旬にかけて大野、小倉、矢田、西之口、多屋、旧常滑、古場、大谷、小鈴谷、坂井地区の計10地区で行われます。山車の形状や幕、彫刻は、21台ある山車ごとに違い、見事です。一番の見どころはからくり人形の演目や祭り囃子、山車の方向転換など勢いのある曳き廻しが圧巻の光景です。お越しの際は是非お楽しみください。



大野
大野祭り
小倉神社等
常滑市大野町2丁目地内等

唐子車(高須賀町)
からこしや

建造時期：寛保元年。知多半島有数の古さを誇る。名はからくり人形「唐子遊び」が由来。白木彫刻(瀬川治助重光)が支輪部にある。からくり人形「魔ふり唐子」、「大唐子」、「小唐子」、「塩土老翁」(篤屋藤吉)を搭載。



大野
大野祭り
風宮神社等
常滑市大野町5丁目地内等

紅葉車(橋詰町)
こうようしや

建造時期：文久3年。旧山車は現常滑市西之口へ売却。西貢車となる。彫刻「源氏香」(高欄)、「紅葉」(前支輪)等。鶴の水引幕。からくり人形「魔振唐子」、「豊太公」、「中唐子」、「逆立唐子」(五代目玉屋庄兵衛)を搭載。



大野
大野祭り
大野橋等
常滑市大野町7丁目地内等

梅榮車(十王町)
ばいえいしや

建造時期：嘉永元年。屋根は黒漆塗り・金箔で装飾。彫刻「松」(前支輪)、「梅」(上支輪)、「鳳凰」(懸魚)等、多数。からくり人形「魔振唐子」、「蘭陵王」、「横笛童子」、「渡唐天神」(二代目隅田仁兵衛藤原真守)を搭載。



大野
大野祭り
江崎社等
常滑市大野町4丁目地内等

権丸(権現町)
ごんまる

建造時期：昭和63年に復元建造。山車船二艘を繋ぎ合わせ、名古屋型檣上に1年日数を表す提灯を半球状に飾る。中心に伸びる芯柱には1年の日数を表す12個の赤い提灯を付けている。檣が前欄を備える名古屋型であり、巻戻部分が回転する。



小倉
小倉区祭礼
小倉天神社
常滑市小倉町1-25

小倉車(小倉)
おぐらしや

建造時期：不明。道具箱などに天保15年の墨書。天保末期に名古屋市伝馬町から購入したと言われる。昭和33年以降中止されたが、平成3年に復活。からくり人形は、飾ると雨が降るので、飾らなくなり、売却されたと伝えられている。



西之口
西之口地区祭礼
西之口神明社
常滑市西之口8-1

西寶車 (西之口)

さいほうしゃ

建造時期：天保6年。大野橋詰町から購入。水引幕は波と千鳥を金糸で刺繍。戦時中等は巡行されなかったが、平成4年に再び巡行される。からくり人形「魔振り人形」、「文字書き人形2体」、「大将人形」を搭載。



西之口
西之口地区祭礼
西之口神明社
常滑市西之口8-1

雷神車 (西之口)

らいじんしゃ

建造時期：天保13年。「張良車」として三之丸天王まつりで巡行。明治の初期は「雷神車」、明治20年代頃から現在の「雷神車」となる。からくり人形「魔振り人形」、「龍神人形」、「張良人形」、「大将人形」の4体を搭載。



矢田
矢田区祭礼
矢田八幡神社
常滑市矢田字谷海道53

御幣車 (矢田)

ごへいしゃ

建造時期：昭和62年。子供会が発案。旧家の解体木材を譲り受け、地元大工の協力を得て、完成。矢田万歳をモチーフにした追幕。横幕は牡丹と獅子。水引幕は鳳凰やキリの花等を刺繍。建造時から現在に至るまで全て地元民の手造り。



矢田
矢田区祭礼
矢田八幡神社
常滑市矢田字谷海道53

矢田車 (矢田)

やたししゃ

建造時期：平成12年。宝くじ助成金と地元民の援助を受け、近隣の建築業者に依頼して建造。



多屋
多屋区祭礼
海槌神社
常滑市大和6-17

海槌車 (多屋)

うすぎししゃ

建造時期：昭和63年。手作りで完成させ、まつりを復活させた。明治時代は、舟車に幟を掲げ巡行していたが、昭和に入り、歴史的人物の作り物を乗せ、造花で飾った山車(花車)を製作。昭和37年まで続いたが中止となっていた。



常滑
神明社、常石神社例大祭
北条の神明社等
常滑市栄町6-200等

神明車 (北条)

しんめいぐるま

建造時期：明治42年東海市高橋須賀町南脇より購入、昭和36年に改修を行っている。建造時期は不明。知多型でありながら外輪である。彫刻は、「力神と四神」「唐獅子に手鞠」「昇り龍、降り龍」「舞楽四図」「角くずし」(二代彫常)「龍神御礼守座彫り」「獅子狛犬」等。水引幕は白紗地に梅に鶯。



常滑
神明社、常石神社例大祭
北条の神明社等
常滑市栄町6-200等

世楽車 (瀬木)

せらくししゃ

建造時期：不明(岸幕腎隆)。大正3年、半田上半田南組より譲り受けたものが現在の山車。明治10年頃にも現武豊町富貴区より山車を譲り受けている。からくり人形「瀬木のおでくさん」(五代目玉屋庄兵衛)を搭載。



常滑
神明社、常石神社例大祭
常石神社
常滑市奥条7-23

常石車 (奥条)

とこいしぐるま

建造時期：明治45年(岡戸峯次郎)。彫刻は脇障子・櫓箱「七福神」、持ち送り「力神」、前山懸魚「飛龍」(初代彫常)。大幕は緋羅紗無地、水引は白羅紗に金糸の縹海老の刺繍。からくり人形「三番叟」(前櫓、六代目玉屋庄兵衛)を搭載。



常滑
神明社、常石神社例大祭
北条の神明社等
常滑市栄町6-200等

常山車 (山方)

とこやまくま

建造時期：大正4年。「神功皇后、武内宿禰」(脇障子)、「牛、仙人」(大平鰯)、「牛若丸、烏天狗」(懸魚)等、多数。水引幕は白羅紗地に唐獅子牡丹。からくり人形「巫女人形」(六代目玉屋庄兵衛ら)を搭載。



常滑
神明社、常石神社例大祭
北条の神明社等
常滑市栄町6-200等

常磐車 (市場)

とこわししゃ

建造時期：大正13年(岡戸峯次郎)。それ以前は、名古屋市西区明道町から購入の舟形「柴舟車」。区内に徳川家康公を祀る柴舟大権現があるため、金具・刺繍に葵紋が入る。からくり人形「柴振り魔振り人形」(二代目萬屋仁兵衛)を搭載。



常滑
神明社、常石神社例大祭
北条の神明社等
常滑市栄町6-200等

保楽車 (保示)
ほらくしゃ

建造時期：大正13年（岡戸峰次郎作）。彫刻「浦島太郎」（壇箱）、「七福神が乗った宝船」（蹴込み）。水引幕は白羅紗地に鯉。からくり人形「桃太郎」（九代目玉屋庄兵衛）を搭載。



古場
古場区祭礼
古場神明社
常滑市古場字五反田18-1-3

古場車 (古場)
こばしゃ

建造時期：昭和59年（大阪府泉佐野市）。平成23年に当保存会に奉納され、だんじり型を知多型に改良。彫刻「龍」（赤梁）、「武者者」（土呂轟）、「鯉」（土呂台）、「川中島の戦い」、「五条橋の戦い」（三枚板）。



大谷
大谷祭礼
大谷八幡社
常滑市大谷字奥條曹源寺地内

東櫻車 (大谷奥条)
とうおうしゃ

建造時期：明治初期（岸幕善兵衛）。旧車を美浜町へ譲渡。檀箱「力神」、「狐の嫁入り」、脇障子「日本武尊・須佐之男」、蹴込「竹に虎」（初代彫常）。大幕「緋羅紗の無地」、水引幕「紺地に鶴と櫻」、追幕「金糸の櫻花の刺繍」。からくり人形「三番叟（媼）」を搭載。



大谷
大谷祭礼
大谷八幡社
常滑市大谷字濱條玉泉寺地内

蓬萊車 (大谷濱條)
ほうらいしゃ

建造時期：天保13年（岸幕善兵衛）。旧車を武豊町へ譲渡し、同年、新調した。檀箱「唐子と犬」、脇障子「関羽と張飛」、「中国仙人列伝」、「鳳凰に乗る王子喬」、蹴込「龍」（立川和四郎昌敬）。大幕「緋羅紗に伊勢海老」、水引幕「波に千鳥」、追幕「蓬萊車」。からくり人形「三番叟（翁）」を搭載。



小鈴谷
白山神社例大祭
小鈴谷白山神社
常滑市小鈴谷字赤松30

白山車 (小鈴谷)
はくさんしゃ

建造時期：大正7年（江原新助）。彫刻「七福神」「力神」「張良と黄意忠公」「波に飛龍」「宝尽くし」等（初代彫常）。大幕は緋羅紗。水引幕「波に千鳥」。追幕「鈴と波に千鳥」。からくり人形「三番叟」（上山。若子武一）を搭載。



坂井
松尾神社祭礼
松尾神社
常滑市坂井字天王13

松尾車 (坂井)
まつおしゃ

建造時期：明治5年。彫刻「唐獅子牡丹」、「飛龍」、「唐草」、「牡丹花に丸」、「丸玉と獅子」、「波」、「乗馬の武士」等、多数。梶棒が主柱内部にある旧形式。からくり人形「軍術書の白旗鬼一法眼館の段」を搭載。

東海市

山車まつり情報

東海市には9輦の山車が2つの山車まつりで伝えられており、それぞれにからくり人形や精緻な彫刻がみられ、かつての繁栄を今に伝えています。横須賀祭りは、江戸初期に横須賀御殿を訪れた尾張藩2代藩主徳川光友公のために行われた傘鉾祭がその始まりとされます。毎年愛宕神社の祭礼に曳き廻される山車は名古屋型で、山車を十字路で回転させる「どんてん」で祭りは最高潮を迎えます。大田まつりは、毎年大宮神社の秋の祭礼に奉納されるもので、4つの組によって知多型の山車が曳き廻されます。山車を回転させる「どんてん」は、それぞれの組が競い合うように行われます。



大田
大田まつり
大宮神社
東海市大田町上浜田138

黒口組山車 (黒口組)
くろくちぐみだし

建造時期：寛政年間。彫刻は瀬川治助重定作。からくり人形は、大木偶が小木偶を肩車し、小木偶が上山の太鼓を叩く。その後、小木偶は上山より吊り下げられた綾棒につかまり、大木偶から離れる。大木偶はそれを見て狂喜する。



大田
大田まつり
大宮神社
東海市大田町上浜田138

市場組山車 (市場組)
いちばぐみだし

建造時期：寛政年間。文政9年、半田亀崎から譲渡。彫刻数は少なく、彩色が施される。からくり人形は小木偶が神楽鈴を持ち、両足で綾棒にぶら下がる。その後、小木偶が大木偶の肩で逆立ちして鈴を振り、大木偶も持っている太鼓を叩く。



大田
大田まつり
大宮神社
東海市大田町上浜田138

里組山車 (里組)
さとぐみだし

建造時期：寛政年間。彫刻は瀬川治助重定作の6点。からくり人形は、蓮台の上で、唐子の大人形が囃子に合わせて文字を書くというもの。